

人工呼吸器患者サポートチーム

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

人工呼吸器を着けている患者への効果的な治療を目的に、県立中央病院は、医師や看護師、臨床工学技士などが緊密に連携する呼吸サポートチーム（RST）を新たに立ち上げた。個々でなくチームでケアに当たることで、トラブル対応や肺炎対策の効率化、人工呼吸器の早期離脱も期待している。

人工呼吸器は脳卒中や肺炎、事故などで自発呼吸ができない容体に陥ったり、治療の過程で一時的に必要なったりして装着する。これまででは医師、臨床工学技士らが別々に患者に対応し、横の連携は十分ではなかった。

RSTは6月からの試行期間を経て、今月から本格始動した。メンバーは医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士、歯科衛生士で構成。4チームあり、1チームが月1回患者を巡回してケアを実施する。

巡回ケアで多角的に治療

《 3 》

人工呼吸器は近年、気管挿管をしないマスク型が普及し、集中治療室以外の一般病棟でも実施されている。患者が自分でチューブを抜いたり、機器の不具合が発生したりと、さまざまな問題が生じてきた。口腔内の細菌がチューブを通じて肺に入り、肺炎を引き起こすこともある。その都度、看護師が個別に専門職に指示を仰いでいたが、RSTの統一した基準に基づいて対応することで、呼吸管理の安全性を向上させることができ

るという。患者1人に対する1回の巡回対応は30分程度。医師や臨床工学技士は患者の状態や人工呼吸器の稼働状況をチェック。歯科衛生士らは肺炎を防ぐための口腔ケアを行う。病棟で患者の呼吸管理に当たる担当看護師らの相談に応じ、アドバイスもする。医師らが顔を合わせて話し合い、患者の状態に合った最適なケアを選択することができれば、人工呼吸器の早期離脱も期待できるという。



チームの一員でもある呼吸器内科の宮下義啓医師は「呼吸療法は生命維持に直結する。機器のトラブル管理や肺炎対策など多角的に治療を行うことが必要で、全国的にも他職種による連携の重要性が認識されている」と説明。今後は人工呼吸の管理期間や、肺炎などの合併症、事故の発生などについての検証も行う方針だ。

（第2、4金曜日に掲載します。今回は23日です）

医師と臨床工学技士らが患者の状態や人工呼吸器の稼働状況をチェック

＝甲府・県立中央病院